

平成30(2018)年度 病害虫発生予報 第11号

平成31(2019)年2月14日
栃木県農業環境指導センター

○気温の上昇や降水量の増加に伴い、病害虫の発生増加が予想されます。

予想期間 2月下旬～3月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比31.4%:ほ場率、平年比33.3%:株率)。(一)
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対策 ・軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行うなど、ほ場管理に留意する。
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。
・発生が見られたらガッテン乳剤等を散布する。
- (4) 備考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん煙処理は避ける。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は少ない(平年比16.0%:ほ場率 平年比0.0%:株率)。(一)
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないよう注意する。
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生状況に応じてフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
- (4) 備考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHP(ホームページ)に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比106.1%:ほ場率 平年比66.7%:株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対策 ・ハウス内の雑草はアザミウマ類の増殖源になるので除草する。
・ミツバチや天敵を導入している時期なので、発生が見られる場合はマツチ乳剤[ミカキイアザミマ]等のIGR剤やファインセーブフロアブルを散布する。
・花を観察し、その1割以上でアザミウマ類が見られる場合は被害が大きくなる恐れがあるので、スピノエース顆粒水和剤やディアナSCを散布する。これらの薬剤はミツバチや天敵に影響があるので、薬剤散布後ミツバチ等を放飼できる期間に注意する。
- (4) 備考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。
・[病害虫防除対策のポイントN0.19いちごのアザミウマ類](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比64.8%:ほ場率 平年比41.6%:発生株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対策 ・ほ場をこまめに観察し、発生初期に防除を行う。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
・化学薬剤に対する抵抗性発達が著しいため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
・また、葉・果実などの傷みを防ぐため、乾きにくい雨天日等の散布を避ける。

- ・カブリダニ剤の追加放飼を行う際にハダニ類の発生が目立つ場合は、カブリダニに影響の小さい薬剤を散布してから放飼する。
- (4) 備考 ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比109.1%：ほ場率 平年比110.7%：発生株率）。（±）
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は少ない見込み。（±～+）
- (3) 対策 ・施設内が多湿にならないよう換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面に結露が生じないように管理する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防対策に重点を置き、発病前からベルコートフロアブルやジャストミート顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
- (4) 備考 ・微生物防除剤（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は10℃以上を確保する。
・ [薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比118.1%：ほ場率、平年比69.9%：株率）。（±）
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。（+）
- (3) 対策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に気門封鎖剤やコロマイト水和剤等を散布する。
- (4) 備考 ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	コナジラミ類	やや少	平年並	トマト	コナジラミ類	やや少	平年並
	アブラムシ類	多	多	きゅうり	うどんこ病	やや多	やや多
トマト	葉かび病	少	やや少	にら	ネダニ類	やや少	やや少

春の病害虫防除対策

○施設野菜類の微小害虫

・施設野菜のハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類等の微小害虫は、気温の上昇に伴い急増します。ほ場をこまめに観察し、発生初期の防除を心掛けましょう。

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう！

○同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

1か月気象予報（予報期間2月16日から3月15日 2月14日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	10%	10%	80%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	50%	30%	20%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問い合わせください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。